

# 次世代のリーダーとなる 消化管内視鏡医を育成する！！

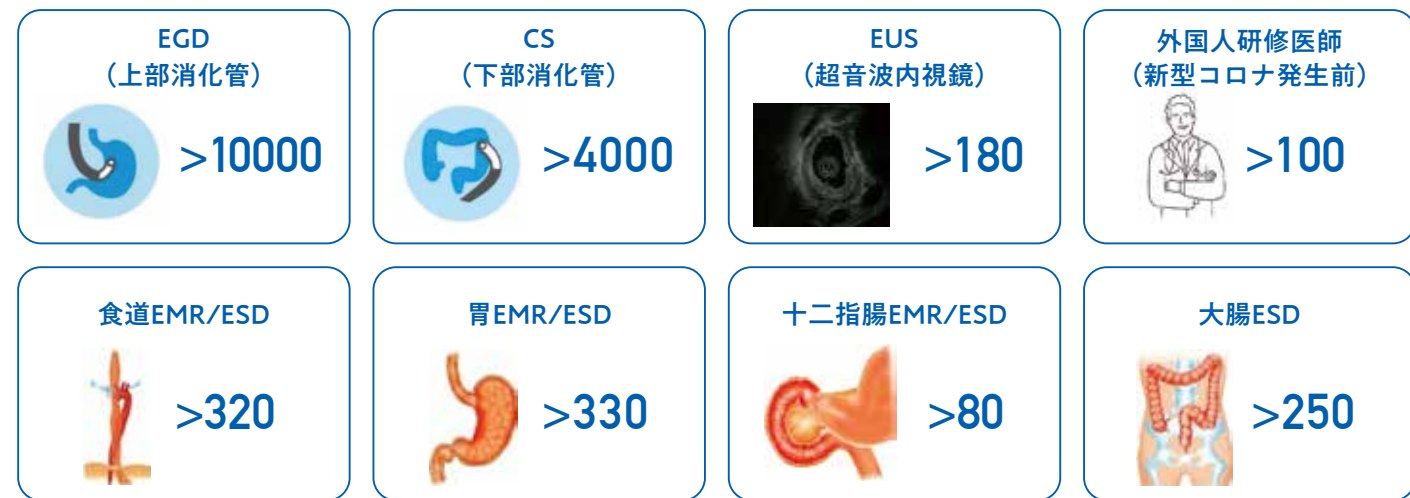
## 診療科としての人材育成のポイント

消化管の内視鏡診断・治療は日本が世界をリードしており、中でも当院は大きな役割を担ってきました。恵まれた環境で多くの症例を経験することで内視鏡医としての実力を飛躍的に向上させることができます。資格としては、消化器内視鏡学会専門医、消化器病学会専門医、消化管学会胃腸科専門医、カプセル内視鏡学会専門医、連携大学院による学位取得が可能です。世界最高レベルの内視鏡診療の中に身を置き、内視鏡医として飛躍を目指す若手医師の皆様をお待ちしています。

- ◆ がんに特化した高度専門医療機関での豊富な症例
- ◆ 日本のみならず世界をリードするスタッフによる指導
- ◆ 臨床・研究・教育を高いレベルかつバランスよく実践する環境
- ◆ 当科へ見学・研修を行う年間100人以上の外国人研修医との交流
- ◆ 研修者の実力や希望に応じて、学会発表・論文作成や臨床研究・臨床試験の計画・実践の機会を提供
- ◆ 次世代リーダーの育成として、英語能力の向上や当院でしか得られない高度な内視鏡 診断・治療の習得



## 年間施行数で見える内視鏡科(消化管) (治療件数は病変ベース)



## 国立がん研究センター内視鏡科(消化管)独自の環境

- ▶ 同年代の若手医師と比べ、圧倒的多数の症例を経験できる
- ▶ 自らの持てる時間と能力のすべてを消化管内視鏡診療に注力することができる
- ▶ カンファレンス担当医は、術前内視鏡検査およびカンファレンスのプレゼンテーションを担当することで、飛躍的に実力を伸ばすことができる
- ▶ スーパーエキスパートによる高難度症例の内視鏡治療に介助者として参加でき、実力に応じて自らも困難症例の術者を経験できる
- ▶ 多くの外国人研修医師が見学・研修しており、英語によるコミュニケーション・プレゼンテーションが日常的であり、国際的な視点を持つことができる

## 充実した研究指導の成果としての多数の英文論文(最近3年間、研修者が first author の論文のみ)

- Hirai Y, Abe S, Makiguchi ME, et al. Endoscopic Resection of Undifferentiated Early Gastric Cancer. J Gastric Cancer. 2023 Jan;23(1):146-158.
- Uozumi T, Abe S, Makiguchi ME, et al. Complications of endoscopic resection in the upper gastrointestinal tract. Clin Endosc. 2023 Jul;56(4):409-422.
- Uozumi T, Saito Y, Toyoshima N, et al. Effective use of image-enhanced endoscopy and endoscopic submucosal dissection for multiple flat non-polypoid colorectal neoplasms. Endoscopy. 2022 Dec;54(12):E684-E685.
- Fukushi G, Yamada M, Kakugawa Y, et al. Genotype-phenotype correlation of small-intestinal polyps on small-bowel capsule endoscopy in familial adenomatous polyposis. Gastrointest Endosc. 2023 Jan;97(1):59-68.e7.
- Mizuguchi Y, Saito Y. Colorectal cancer invasion calculation, a colorectal tumor depth diagnostic artificial intelligence, is promising, but its diagnostic accuracy remains a challenge. Dig Endosc. 2023 Jul;35(5):636-637.
- Mizuguchi Y, Tanaka Y, Cho H, et al. Endoscopic features of isolated and traditional serrated adenoma-associated superficially serrated adenomas of the colorectum. Dig Endosc. 2022 Jan;34(1):153-162.
- Koyama Y, Yamada M, Makiguchi ME, et al. A new scoring system to distinguish deep invasive submucosal and muscularis propria colorectal cancer during colonoscopy: a development and global multicenter external validation study (e-T2 Score). Gastrointest Endosc. 2022 Aug;96(2):321-329.
- Kawamura R, Abe S, Ego M, et al. Precut esophageal endoscopic mucosal resection for cervical esophageal cancer to minimize mucosal defect. Endoscopy. 2022 Mar;54(3):E81-E82.
- Okagawa Y, Abe S, Yamada M, et al. Artificial Intelligence in Endoscopy. Dig Dis Sci. 2022 May;67(5):1553-1572.
- Okagawa Y, Abe S, Takamaru H, et al. A novel technique for adjusting traction direction during colorectal endoscopic submucosal dissection using S-O clip. Endoscopy. 2021 May;53(5):E177-E178.
- Kawashima K, Abe S, Koga M, et al. Optimal selection of endoscopic resection in patients with esophageal squamous cell carcinoma: endoscopic mucosal resection versus endoscopic submucosal dissection according to lesion size. Dis Esophagus. 2021 May 22;34(5):doaa096.
- Kasuga K, Abe S, Oda I, et al. Guidewire-assisted technique for gastroscope insertion through stricture of Zenker's diverticulum for esophageal endoscopic submucosal dissection. Endoscopy. 2022 Jun;54(6):E279-E280.
- Kasuga K, Oda I, Nonaka S, et al. Endoscopic complete closure of duodenal mucosal defects using a clip with a looped thread after endoscopic resection. Endoscopy. 2022 Apr;54(4):E135-E136.

## 研修後の進路

	2021年度	2022年度	2023年度
国立がん研究センター(医員、研究員、Physician scientist等)	0	2	1
大学病院	0	0	2
全国のがんセンター・全がん協加盟施設	0	0	0
市中病院	1	0	0
企業、海外留学等	0	0	0
その他	0	0	0
合計 ※研修継続者、専攻医は除く	1	2	3

## ■プログラム

### § 推奨するコース

#### ●レジデント3年コース

研修目的・内容	・消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組み ・国内・国際学会での筆頭著者 ・Peer review journalでの筆頭著者 ・専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・合計100例以上のESD術者経験および2-3本の英語論文執筆を目指す
研修期間・ローテーション	1年目：初期は消化管内視鏡科研修、それ以降のローテーション期間(CCM含む)では、病理科(6ヶ月以上)・消化管内科など診断部門および内科部門が選択可能。 2年目：前半に消化管内視鏡科へ戻り、以降は消化管内視鏡科研修。各臓器(食道・胃・大腸)の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。 3年目：消化管内視鏡科研修。各臓器(食道・胃・大腸)の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。また、検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能。

#### ●がん専門修練医コース

研修目的・内容	・2年間、消化器内視鏡科に特化して、より高度な内視鏡診断・治療を研修する ・臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組み ・国内・国際学会での筆頭著者 ・Peer review journalでの筆頭著者 ・専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・2年以上のレジデントコース修了後の実力に相当する医師を対象としたコース ・合計150例以上のESD術者経験および3-4本の英語論文作成を目指す
研修期間・ローテーション	2年間：原則として消化管内視鏡科に在籍するが、検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得と、内視鏡検診に関する研究を行う研修も可能。各臓器(食道・胃・大腸)の術前カンファレンスを担当することもある。学会発表、論文執筆、研究立案など。

### § 副次的なコース

#### ●レジデント2年コース

研修目的・内容	・消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組み ・国内・国際学会での筆頭著者 ・Peer review journalでの筆頭著者 ・専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・合計50例以上のESD術者経験および2-3本の英語論文執筆を目指す
研修期間・ローテーション	1年目：ローテーション以外は消化管内視鏡科研修。ローテーション期間(CCM含む)では、病理科・消化管内科など診断部門および内科部門が選択可能。状況により、ローテーションが2年目になることも許容する。 2年目：消化管内視鏡科研修。各臓器(食道・胃・大腸)の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。また、検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能。

#### ●連携大学院コース

研修目的・内容	・消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組み ・国内・国際学会での筆頭著者 ・Peer review journalでの筆頭著者 ・専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に研究の指導を1年目から受けられる
研修期間・ローテーション	1年目：ローテーション以外は消化管内視鏡科研修。ローテーション期間(CCM含む)では、病理科・消化管内科など診断部門および内科部門が選択可能。状況により、ローテーションが2年目になることも許容する。連携大学院に入学する。 2年目：消化管内視鏡科研修。各臓器(食道・胃・大腸)の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。 3-4年目：がん専門修練医に準ずる研修を行い、学位論文を作成する。 ※がん専門修練医への採用には再度選考試験あり ※不採用者は任意研修の立場で大学院に在籍は可能だが、当院からの給与は支給されない

#### ●レジデント短期コース

研修目的・内容	・消化管の内視鏡診療と臨床研究に取り組み ・学会発表や論文作成を目指す
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：消化管内視鏡科研修。他科ローテーション相談可能。 ※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM研修を行う

#### ●消化管・胆膵内視鏡エキスパートコース(レジデント2年コース)

研修目的・内容	・消化管内視鏡科および肝胆膵内科において消化管・胆膵内視鏡の専門的な知識・技能を習得する ・臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組み ・国内・国際学会での筆頭著者 ・Peer review journalでの筆頭著者 ・消化管内視鏡科では在籍期間に応じて、より多くのESD術者経験および英語論文作成を目指す ・肝胆膵内科では胆膵内視鏡の検査・治療が主たる目的の入院患者を担当しながら、検査・治療全体に携わる
研修期間・ローテーション	2年間：初期に消化管内視鏡科研修。その後は消化管内視鏡科および肝胆膵内科を希望の期間で研修する。消化管内視鏡科および肝胆膵内科で18か月以上の研修を必須とし、両科を少なくとも6か月以上ずつ研修する。病理科等の関連診療科での研修も選択可能。

#### ●消化管・胆膵内視鏡エキスパート短期コース(レジデント短期コース)

研修目的・内容	・消化管・胆膵内視鏡の診療と臨床研究に取り組み ・学会発表や論文作成を目指す
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：消化管内視鏡科および肝胆膵内科研修。 ※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM研修を行う

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は16-17ページを参照